

「多文化共生推進士」養成ユニット評価委員会における
平成 25 年度の本事業の取り組みについての評価結果

評価の概要

【評価結果】

順調に進んでいる。

【判断理由】

平成 25 年度事業の評価については、以下の理由から判断した。

① 事業の進捗状況

本事業が 5 年目を終了するにあたり、受講者、修了者ともに計画どおり養成が進んでいる。

・計画では受講者数 90 名のところ 91 名が在籍している。平成 25 年 4 月には多文化共生推進士 5 名が県から認定され、平成 26 年 4 月にはさらに 5 名が認定される予定である。以上のことから、当初の目標を達成している。

② 事業の教育内容及び実施方法

事業教育内容及び実施方法については、平成 24 年度の当委員会の評価結果を踏まえ、すべての項目について創意工夫を加え、さらなる充実をはかっている。

・アナリストコースで取り組んだアンケート調査にもみられるように、コースの実践事業は、地域ニーズを反映させ、多くの関係者、企業や地域自治体との連携を深めて広げて進めている。

・この事業での実践的な方法論は、研究の方法論にも示唆を与えるパイオニア的な取組である。ポストイットを活用し、社会に馴染む資源を上手に組み合わせ、学問的価値を守りながら、実践性を高めている。その方法論は、社会人にも納得のできる活用可能な方法として高く評価できる。その手法を活用し、今後もアクションリサーチ等に活用いただきたい。

・地域関係者の巻き込みによって、いろいろな視点があることを履修生に実感させ、多文化共生の視点を体感させている。履修生の視野を広げるとともに、国籍や文化の違いとその違いを超えた普遍的な関係も学ばせている。

・地域関係者の巻き込みによって、事業の成果を地域に活用・還元させようとする一種の使命感も履修生に持たせることに成功している。

③事業の有用性及び発展性

- ・平成 25 年 4 月に県より認定された多文化共生推進士は、すでにそれぞれの分野で活躍している。その効果が実感できる状況が生まれつつある。
- ・定住外国人が高齢期に備えるための日本語教室の取組も、汎用性は高く、交通ルール、防犯、防災等、異なるテーマにも展開することを期待する。
- ・事業の過程で、多文化地域の課題解決に不可欠な人的ネットワークが構築されている。

④今後への助言

群馬大学では、人材養成のノウハウが蓄積されてきたと思う。また、構築された人的ネットワークは、継続して活用しなければ弱まってしまうため、今後も継続的に活用する方策が必要であることから、以下の助言を行った。

ぜひ、今後も群馬県とユニットを組み、継続して推進していただきたい。その実績は、個人の時間や研究を犠牲にして全力投球したからこそなしたのものとも言える。この事業を継続的に展開するには、アメリカなら「財団」に匹敵するほどの環境整備が必要で、支援スタッフを配置し、収益を上げ、寄付も集めるというシステムを構築する方策も検討できるのではないか。

以上